

「MOS世界学生大会2011」ワード部門

学校法人 大原学園
学 法 人

寺尾さんが日本初の世界チャンピオンに

世界57か国から約23万人がエントリー

宣言通り、世界の頂点に。8月1、2の両日、米カリフォルニア州サンディエゴ市で開催された「MOS世界学生大会2011」の決勝戦で、大原情報ビジネス専門学校（中野信男校長）東京・豊島区東池袋）のOA経理ビジネスコース2年、寺尾瑞希さんが



日本初のチャンピオンに輝いた寺尾瑞希さん

ワード部門で日本人初の世界チャンピオンに輝いた。MOSとはマイクロソフト・オフィス・スペシャリストの略称。いまやレポートやビジネス資料作成に欠かせない、ワード、エクセルなどマイクロソフトオフィス製品の利用スキルを証明する資格だ。そして全世



米国サーティポート社のレイ・ケリーCEOからチャンピオン証明書と賞金5千ドルの目録を授与される

「頂点宣言」みごとサンディエゴで結実

界で実施されているMOSの年間受検者から、学生を対象としてパソコンスキルを競うのがMOS世界学生大会。今年で9回を迎え、試験の配信元である米国サーティポート社と日本のオテッセイコミュニケーションズが共同開催している。

2011年度は、昨年4月から今年3月までの受検者が対象。世界57か国から延べ22万8千人の学生がエントリーした。日本では約2万7千人の学生から、ワード、エクセル、パワーポイント部門の成績上位者各3人に二次選考に進む資格が与えられ、希望者が小論文と面接の選考に臨んだ。

その結果、寺尾さんを含む5人の日本代表が決定し、6月17日に開かれた日本大会の表彰式で発表された（本紙7月号既報）。

世界大会まで1か月あまり。この間、寺尾さんは模擬問題を何度も復習して試験に備えた。7月28日には大原学園理事長室で壮行式が行われ、大原学園の安部辰志理事長から表彰状を授与されるなど激励された。

本紙の取材にも寺尾さんは「出場するからには日本人で初めてのワード部門世界チャンピオンを目指す」と力強く宣言していた。

8月1日午前、世界大会の先陣を切ってワードの試験が始まった。世界の頂点をめざす、それぞれの国の

大原学園の安部辰志理事長（右側）と大原情報ビジネス専門学校の中野信男校長に囲まれて記念写真



代表者。「会場はびんと張りが詰めた空気が漂っていました」と寺尾さんは振り返る。順調に問題を解いていたが、使ったことのない機能が問題されたときにはさすがに冷汗が出た。「落ち着いて、自分がやれることはしっかりやろうと言いつつ聞かせました」。だが試験が終わったときは、完璧な解答ができなかった悔しさにしばらく落ち込んだという。

翌日の結果発表は3位からアナウンスされた。なかば諦めていた寺尾さんは1位に呼ばれたのが自分の名であることに一瞬気づかなかった。

「表彰式の最中も夢の中にいるようでした。夜になってやっとチャンピオンになった喜びがじわじわとわいてきました」。さらに帰国後の両親や周囲の喜びよう、相次ぐ取材依頼に成し遂げたことの大さを知る。「世界大会を経験して本当に良かったと思います。ワードのスキルアップはもちろんですが、海辺で遊んだり、メジャーリーグを観戦したりと出場者と交流する機会もたくさんあり、文化の違いや様々な考え方に触れることができました。ひと回り成長できましたか。賞金の5千ドルは、今後興味を持った勉強や資格取得の費用に充てたいとあくまで前向きだ。安部理事長は「日本の学生として初の快挙であり、わが学園にとっても、日本の専門学校にとっても非常に名誉なこと。本校のレベルの高さを証明してくれたことに感謝したい」と寺尾さんを称えた。